

I. 研究の概要

1. 問題

通常の学級における発達障害等の特別な支援を必要とする子どもが学びやすい配慮や支援等については、学校生活全般を一人の教師が担う小学校に比べて、中学校、高等学校では教科担任制をとり、支援体制づくりにおいても困難な面があることなどから、十分な取組ができていない現状にある。特に高等学校では、課程や学科等の違いなど教育のシステムが多様化しており、授業の工夫だけでなく、試験に関する配慮、評価の方法、進路指導等も大きな課題となることから、小学校、中学校とは異なる対応についての検討が必要である。

高等学校になると、学習に対する苦手意識が固定化し、意欲があまりみられない生徒も出てくる。しかし、分りやすい支援や配慮、学びやすい科目や教科の設定、個に応じた評価方法等の工夫等により、学ぶ意欲が高まり自立する力が伸びていく生徒も少なくない。文部科学省のモデル事業により研究に取り組んだ高等学校からも事例がいくつか報告されている。

高等学校における指導・支援を充実させていくためには、個への配慮・支援だけでなく、学級集団全体への働きかけも考えていく必要がある。また、思春期の課題を抱える時期は、学習面や生活面における様々なつまずきとともに、対人関係の問題、周囲との違いに気づくことによる自己理解等も不安要因になりやすい。不登校などの二次障害の症状から、進路変更・中途退学をせざるを得ない状況に追い込まれている生徒も少なくない。心のケアも含めた個別的な支援を行う場や機能（例えば通級による指導に類似した形態）の活用等についても検討が求められる。

文部科学省「特別支援教育の推進に関する調査研究協力者会議 高等学校ワーキング・グループ報告」（平成 21 年 8 月）では、主なポイントとして、入口側の支援としての入試における配慮・支援、出口側の支援としてのキャリア教育・就労支援等、そして内容（体制・指導）充実としての体制の充実強化と指導・支援の充実方策が具体的な項目として挙げられている。

本研究では、報告にある体制の充実強化と指導・支援の充実方策の内容を中心に、高等学校の現場のニーズに応じた指導・支援の在り方について、研究協力校における実践を通して、そのポイントとなることを検討しまとめた。高等学校は課程や学科等により支援の必要な生徒の状況も異なること等から、義務教育段階のように一律には考えにくい面もある。本研究では、研究協力校の実態に合わせ、特別な支援を必要とする生徒が比較的多く在籍している高等学校を中心に指導・支援の在り方についてまとめることとした。

2. 目的

本研究は、高等学校における発達障害等の特別な支援を必要とする生徒の指導・支援の在り方について、研究協力校における実践を通して、その重要なポイントになることを検討し、まとめることを目的とした。

「特別支援教育の推進に関する調査研究協力者会議高等学校ワーキング・グループ報告」（平成21年8月）及び、「初等中等教育分科会高等学校教育部会の審議の経過について」（平成25年1月）の報告の内容を参考に、研究協力校における実践を行うとともに、文部科学省の研究校等から情報収集を行い、研究協力校の教職員との話し合いや研究協議会等を経て、重要なポイントになる課題を、「実態把握」「組織的な対応・校内支援体制」「教育課程・指導形態」「指導・支援」「学習評価」「中高連携」「キャリア教育・進路指導」の7つの観点で整理し、検討した。

3. 方法

研究期間は2年間とし、第一年次は高等学校における発達障害等の特別な支援を必要とする生徒の支援に関する現状と課題を整理し、第二年次に高等学校の教育現場のニーズに見合う指導・支援の在り方について研究協力校における実践を通して検討した。

研究協力校については、高等学校側のニーズも重要であることから、公募を行った。公募により選定した6校は、全日制普通科3校、全日制専門学科2校、定時制普通科1校である。学習面、生活面に様々な課題を抱え、特別な支援や配慮を必要とする生徒が比較的多く在籍している高等学校である。

第一年次の現状と課題の把握に当たっては、研究協力校からの情報収集とともに、文部科学省のモデル事業校の研究実践、都道府県教育委員会の取組等も参考にして整理した。第二年次の指導・支援の在り方については、研究協力校における生徒の実態に応じた授業づくりを中心とした指導・支援の工夫の実践を通して、「実態把握」「組織的な対応・校内支援体制」「教育課程・指導形態」「指導・支援」「学習評価」「中高連携」「キャリア教育・進路指導」の観点から、現状の課題と重要なポイントを検討し、大切にしたいポイントとしてまとめた。

研究成果については、報告書としてまとめるとともに、リーフレットを作成し、都道府県教育委員会や高等学校の教育現場等に配布する予定である。

(24年度)

5月－7月	高等学校教育に関連する先行研究、文献・資料収集 研究協力校、研究協力機関訪問（高等学校・教育委員会） 都道府県教育委員会調査の実施、 特色のある学校・機関視察 等
8月	研究協力校の情報収集、 特色のある学校・機関視察 等
9月－12月	第1回研究協議会 研究協力校におけるこれまでの取組の整理、 教育委員会調査のまとめ 文科省高等学校モデル事業校等のまとめ
1月－3月	高等学校における生徒の支援に関する現状と課題の整理 研究協力校における研究実践の方向性の検討、 中間報告の作成 第2回研究協議会

(25年度)

4月－5月	研究協力校における研究内容の焦点化、 研究実践の中核テーマを設定
6月－9月	研究協力校における研究実践、 研究協力機関、研究協力者等からの情報収集・整理 第1回研究協議会
10月－12月	研究協力機関における研究実践 研究協力機関、研究協力者等からの情報収集・整理 第2回研究協議会
1月－3月	研究所セミナーにおける研究報告 研究成果報告書のまとめ